大樹の礎

Taiju no Ishizue

第7号 2010 8.1

発行者：学校法人 鼎西医療学園
日本医療科学大学
〒350-0435
埼玉県入間郡毛呂山町下川原 1276
Tel：049-294-9000
URL：http://www.nims.ac.jp

第四期生 二百五十二名が入学！

平成二十二年四月二日、日本医療科学大学第四期生を迎える入学式が満開の桜の下、川越プリンスホテルにおいて挙行されました。

平成十九年に開学した日本医療科学大学にとって本年度は完成年度を迎える年であり、この記念すべき年に、診療放射線学科百八名、リハビリテーション学科理学療法学専攻百六名、リハビリテーション学科作業療法学専攻三十八名の合計二百五十二名の学生が、佐藤学長から入学の認証を受けました。

当日は三百名を超える保護者・御父母の皆様が参列され、新入生を代表して診療放射線学科の平山悠輝君が宣誓を述べました。

学長式辞、理事長挨拶の中では、医療人を目指す人間として当たり前に挨拶のできる心豊かな学生として勉学に励んで欲しいとの希望が強調されました。

より良き医療人を目指せ（入学式式辞の要旨）

日本医療科学大学　学長　佐藤　泰正

二百五十二名の新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。今の新鮮な気持ちを忘れることなく大学生活を送って下さい。

皆さんはこの大学を卒業するとそれぞれ学士の称号を与えられることになります。したがって皆さんは、大学卒業までにしっかりした「学士力」を身につけなければなりません。

「学士力」とは、「高い教養と専門能力、さらに研究能力」のことです。

本学では、臨床面も含めた保健医療に関する高い専門的能力を身につけるための教育科目を用意しております。カリキュラムに従ってしっかりと学習して下さい。

二十一世紀のキーワードとして、私は三点を挙げたいと思います。

一つ目は「高齢化社会を中心とする福祉問題」です。最近の社会現象をみると、生命の尊さや大切さに対する意識が失われていると思わされるものが多いことは皆さんもよく承知しているところだと思います。皆さんにとって「福祉の心」を学び、養うことは非常に大切です。

二番目は「情報化」の問題です。言うまでもなくITの進展は日進月歩であり、あらゆる情報が氾濫をしています。皆さんは、これらの中から的確な情報の取捨選択の能力を身につけなければなりません。

三番目は「国際化」にどう対峙していくかという問題です。医療の分野においても国際化の波は確実に押し寄せてきており、これに対処できる語学力の養成は必須であり、本学においては英語のほか、中国語、スペイン語の講座も用意しています。

また大学時代の友人は一生の友となることが多いと思います。日本医療科学大学で良き友を得て、立派な医療人になるよう努力して下さい。

就職支援センターが始動！
就職部長に、中村教授が就任

就職部長
中村 修教授

就職副部長
伊藤 芳保准教授

第一期生の国家試験、就職活動が間近に迫る中で、大学として就職に関して万全を期すため、就職支援センターを正式に設置し、就職部長として中村修教授、副部長として伊藤芳保准教授が就任しました。

中村先生からは、就職に関しては今までの専門学校時代からの積み重ねもあり、同窓会（城西放射線技術専門学校、城西医療技術専門学校、日本医療科学大学の三つの学校の卒業生で構成され、「JJN同窓会」の名称で活動しています）の協力なども得てできる限り希望に添える就職先を紹介できると思うので、まずは国家試験合格のために全力を傾注して欲しいとの学生への温かい言葉をいただきました。

教育指導力の向上を目指して
FD委員会の活動について

大学の社会的責務の一つとして、常に教育指導力を向上させるための活動が義務付けられており、それぞれの大学は、学生の「学士力」（大学生として当然保有すべき学力）を教員が保障するための取り組みを行わなければならないことになっています。

本学においてもFD（ファカルティー・ディベロップメント）委員会において協議を重ね、全教員参加の下、教員を学生に見立てた模擬授業を行い、その後、それぞれの授業に対する評価を教員自ら行うといった取り組みを経て、実際の授業の質を向上させるための努力を行っています。

スポーツデイ 開催！

五月二十八日（金）、本年度のスポーツデイが坂戸総合運動公園で行われました。

スポーツデイは日頃の厳しい授業に取り組んでいる学生にとって、気分をリフレッシュする絶好の機会となっています。

好天にも恵まれ、一年生から三年生まで（四年生は臨床実習中）の学生が様々な種目に参加して汗を流していました。

診療放射線学科における臨床実習について

学科長　中谷儀一郎

診療放射線学科では、3年次に見学実習を一週間、4年次に臨床実習十週間の病院実習を行います。

診療放射線技師を目指す学生にとって、放射線医療分野の知識の習得は必須の要件ですが、同時に特殊な職場環境や患者接遇などの理解も極めて重要です。特に、4年次の実習は放射線医療分野を総合的に習得する集大成と位置付けることができます。

一方で、学生にとっては初めて医療現場と患者接遇を経験する場であることから戸惑いや混乱が生じやすく、余裕をもって考察したり知識を習得したりできない場合も出てきます。そこで4年次の臨床実習に無理なく移行できるよう、1年次に大学病院の放射線診療部門の見学と人体解剖見学実習、2年次にX線装置、MRI装置などの製作メーカーの工場見学、3年次に一週間の病院見学実習を実施しております。

昨年九月の一期生（現四年生）の病院見学実習後の学生の感想は以下のようなものでした。

①見学実習の意義について

・来年の臨床実習に向けての準備になった

・診療放射線技師の業務が見られて良かった

②実習前後の意識の変化について

・もっと勉強しなければと思った

・解剖の勉強の必要性を感じた

・職業現場への意欲が出た

③実習内容と指導者について

・熱心、丁寧にわかりやすく指導してくれた

・患者接遇が勉強になった

一期生にとっては初めての臨床現場経験であり、自分の学力や意識の低さを改めて自覚し、今後の勉強につなげようとする意識の変化や精神的な成長を伺わせる感想が多かったのが特徴的でした。

今後も、無事に臨床実習を終えることができるよう、実習先と綿密な連絡・連携を取りながら学生一人一人を指導してまいります。

図書館からのお知らせ

十月一日より新しい図書館がオープンします。三階建の二階、三階部分が図書館となります。

二階は配架スペースで、約二万冊の図書を置ける広さです。また、閲覧スペース、マルチメディア教室、グループ学習室もあります。

三階部分は主に自習スペースとなっていて、キャレルデスクを配備し、個別に学習する事が可能です。

今後学生の皆さんが使いやすいよう、利用時間や利用冊数などを検討する予定です。新しい図書館の開館、楽しみですね。

新入職者の紹介

四月一日付で、診療放射線学科助手として上田大輔さんが入職されました。

「第一期生の国家試験合格のために、あらゆる努力を惜しまない決意です。」

完成年度を迎えて

学城西医療学園 理事長 新藤 宣夫

ここ毛呂山の地に城西医療技術専門学校診療放射線学科を設立してから、早くも四半世紀の時間が過ぎ去り、様々な試行錯誤を重ねながら、いよいよ日本医療科学大学の完成を見ることとなりました。

この間、日本国内においても世界のあちこちでも想像もできない出来事がたくさん起こり、改めて人間の尊厳とは何かを考え直させられる時間であったようにも思います。

教育の現場を預かるものは、常にこうした歴史を踏まえたうえで、将来・未来に対して先見性を持たなくてはなりません。「少子・高齢化」の問題一つをとっても、日本全体で支える体制が出来上がっているとは到底言えません。そうした中で求められているのは、人々の幸福に寄与しようとするエネルギー溢れる若者の出現です。

完成年度を迎え、第一期生が高い望みを持ち、社会に巣立っていくことを心から願うとともに、この大学の将来をより輝かせるためにも、一日一日を大切に学んでほしいと思います。

新入生フレッシュマンセミナー

入学式を終えた新入生・教職員・学生スタッフ総勢二八〇名の参加の下、本年度もフレッシュマンセミナーが行われました。

本年度は、積雪が残る新潟県津南町にあるニューグリーンピア津南に場所を移し、四月四日、五日の一泊二日で実施されました。

最初に行われた全体会では、佐藤学長のメッセージ、スタッフ紹介、基本的な学生生活についての説明の後、各学科・専攻に分かれガイダンスが行われました。

今回のフレッシュマンセミナーでは、教職員・学生と学生同士の連帯感を深めることに主眼をおき、自由時間を多く取り、夕食もバイキング形式でコミュニケーションを増やすよう工夫がなされました。

二日目にはホテルの大体育館においてクイズやミニ運動会を行い、競技終了後の成績発表では順位や商品に一喜一憂し、たった二日間でこんなにも早く学生同士が打ち解けるものかと驚かされました。

これから始まる学生生活の活力になったことを確信して、帰途につきました。

連続エッセー⑥ 伝えたいこと

理学療法学専攻 富田 浩

以前、大学の事務の方から、「傘かしげ」という言葉を教えていただいた。毎日、大学の事務で学生と接している方である。「傘かしげ」は、「江戸しぐさ」の一つであり、雨の日の狭い路地などで人と人とがすれ違う際、傘がぶつかったり、しずくがかかったりしないように、傘をお互い反対側に傾けること、また、その気配りなどをさして言う言葉だそうだ。

学生に、「どんな理学療法士になりたいか?」と尋ねると、「人に信頼される理学療法士になりたい」「心理的なサポートができる理学療法士になりたい」などの答えが返ってくる。学生はそれぞれ、異なる理由で理学療法士を目指しているのであろうが、人と向き合い、人の手助けをする仕事を目指していることは間違いないと思う。また、多かれ少なかれ、学生はそのような志を持ってこの大学へ入学してきたのではないだろうか。しかし、大学にいると、日々忙しい中でそれらが忘れ去られているのでは?と、思うことが度々ある。もう一度初心に返り、「傘かしげ」のように、相手を思いやるような気持ちを持って、粋な行動や言動が取れるようになってくれるといいなと思う。

(とみた ひろし 本学教授)

編集後記

入学式から瞬く間に四か月が過ぎ、それぞれの学年でのペースがつかめてきたことと思います。四年生は全員が臨床実習に出かけており、帰ってきたときの成長ぶりが楽しみです。国家試験対策の講義も本格化するようですし、来春の試験結果が素晴らしいものになるよう祈っています。